

受験番号	
------	--

日本赤十字東北看護大学  
看護学部看護学科

令和8年度 一般入学選抜試験問題

[国語]

【注意事項】

1. 試験時間は60分です。
2. 問題文は、全部で4ページあります。
3. 設問と解答用紙は一緒になっており、全部で2枚あります。
4. 受験番号は、この表紙と解答用紙2枚すべてに書いてください。
5. 質問があるときは、手を挙げて監督者に知らせてください。
6. 解答用紙も問題文も持ち帰ってはいけません。

次の文章を読んで、解答用紙の問いに答えなさい。

大学の授業の質問が増えてきているのが、「先生、SNSで〇〇という意見があったのですが、どう思いますか」という類のものである。たとえ発信元が誰なのか分からないとしても、その情報が流れてきて、目に入ってしまうと無視することができず、どうしても気になってしまおうらしい。たとえば、こんな投稿である。

生まれてきてしまったら幸せになれる可能性が高いことが哲学では証明されているから、生まれてこない方がいいし、子どもをつくるのは悪いことだと思う。

この文言にどういう印象を持つだろうか。反出生主義<sup>①</sup>をソウギさせるような内容に興味を惹かれる人もいるかもしれない。私の場合、スマホの画面を急に見せられて、さて、先生はどう思いますか、と聞かれても、大抵の場合、困ってしまう。（中略）

発信元を確認すること、複数の情報源を参照すること、拡散するまでに時間を置くこと、ファクトチェックにけることなど、インターネットで得られた情報を扱うためのノウハウは巷<sup>ちまた</sup>にたくさんある。しかし、哲学的に言えば、問題の本質は、インプットした情報をどう処理するのか、言い換えれば、その事象をどのように考えていくのか、という思考の方法である。ここでは具体的なイメージをつかむために、私自身が先の投稿をきちんと考えてみよう。

私だったら、ベンギ<sup>②</sup>上、先の投稿の内容を二つの部分に分ける。たとえば、こんな感じである。

- (一) 生まれてきたら幸せになれる可能性が高いことは哲学で証明されている。
- (二) 生まれてきたら幸せになれる可能性が高いから、生まれてこない方がいい。また、子どもをつくるのは悪いことである。

まず、(一)の解像度をあげていこう。生まれてきたら幸せになれるとは、どういう意味なのだろうか。詳しいプロセスは後に示すことにして、ここでは端的に「幸せ」の本質を現象学的に取り出してみよう。私の意識体験を反省してみると、幸せは欲望が充足して安定している状態、すなわち、心が充足した「状態」として現われる。また、幸せは「理念」としての本質も持つだろう。幸せの概念には、欲望が充足した心地よい状態の持続や、あらゆる欲望が完全に満たされた極限の想定が含まれているからである。それは、具体的なイメージを持たないまま「幸せになりたい」とつぶやいているときの、あの「幸せ」の感じだ。したがって、幸せの本質には「状態」と「理念」の二つがある、と見えそうである。

だとすれば、幸せと欲望は（a）である、ということになる。欲望がまったく動かないとしたら、

それが充たされることもないので、幸せは生じない。お腹が減るから美味しいものを食べたときに、幸せを感じられるのだ。何らかの欲望から幸福の（ b ）は現われており、欲望がなければ、幸せも不幸せも存在しない。

ところが、欲望は人によって異なり、またそれは一人の人間の中でも——場合によっては互いに対立する欲望が——同時に複数あるだろう。それゆえ、幸せの具体的内実是人によって異なる。また、（ c ）な変化も考慮に入れる必要がある。成長の過程で欲望が変われば、それに応じて何を幸せと感じるのかも変化するからだ。

また、何を幸せと感じるのかは、人が置かれた状況や（ d ）によっても左右されるはずだ。たとえば、周囲の人が貧しければ、貧しいことを不幸だとは思わないかもしれないが、周囲の人が裕福な場合、自分の貧しさが際立ってきて、それを不幸だと感じるかもしれない。とはいえ、自分たちだけが貧しい場合でも、家族や友人に恵まれたら、貧しいことを不幸せだと思わない人もいるにちがいない。

では、生まれてきたら幸せになれないとは、人間の最も重要な欲望の一つに限定できるとしたうえで、それが充たされない、ということなのか。あるいは、もつと一般に、欲望が充たされるための社会的条件が悪くなっている、ということなのか。それとも、別の意味を持つのか。私の観点からは、どうしてもこの辺に曖昧さが残る。

ところで、なぜ私たちは幸せについて考えてしまうのだろうか。動物的欲望や人間的欲望を充たしたいだけなら、それを実現するための手段の考察に時間を割いた方がよさそうなものである。幸せを問うことのうちには、別の何か<sup>c</sup>がヒソ<sup>③</sup>んでいるにちがいない。どうして、幸福は人間の根本問題<sup>d</sup>となるのだろうか。

私の考えは、こうである。家族と過<sup>ご</sup>す何気ない現在の一場面に幸せを感じたり、あの時は幸せだったな、と、もう戻ってはこない過去の情景に想いを馳せたり、いつか幸せになりたいな、と、自分の願いを未来に託したりしながら、人間は生きている。忙殺される日々の合間に、この大変な日々をいつか幸せだったと懐かしむときが来るかもしれない、という幸福の認知の予期もやってくる。現在の幸せは永遠には続かない、という終わりの予感に心が暗くなることもあるだろう。

幸せについて考えているとき、意識体験に立ち上がっているのは、単なる欲望の充足や不足ではない。そこには、<sup>へ</sup>私<sup>の</sup>の生に対する納得や期待や幻滅があるのだ。言い換えれば、幸せって何だろう、とつい考えてしまうとき、私たちは、後戻りのできない一回限りの生において、どのような欲望を大切にしていきたいのか、ということをも考えているのである。つまり、幸せを感じたり、予感したり、懐かしんだりすることで、<sup>へ</sup>私<sup>は</sup>は自らの欲望や生の状態を見つめ直している、ということだ。こうやって生きていてよいのだろうか、と、そう自分に問いかけているのである。

こう言ってみることができる。幸せの具体的内実は、その人の生まれ持った資質や性向、価値観や関係性、文化的背景や社会状況に大きく依拠する。この意味では、幸せは相対的なものにすぎない。そうでありながら、幸せが人間にとって普遍的な問題でありうるのは、一回性をその本質とする有限な生の中で、放っておけば無限に増殖しうる欲望を、環境の制約や能力の限界と折り合いをつけながら取

捨選択しなければならず、その偶然とも必然とも言えそうな、また受動的とも能動的とも見えそうな、<sup>④</sup>生のトウタに誰もが納得したいからである。すなわち、 $\langle$ 私 $\rangle$ が選んだことも、 $\langle$ 私 $\rangle$ が選ばなかったことも含めて、生の全体を受け入れようとするから、人間は幸せとは何かを考えてしまうのだ。

出生の条件の悪さや能力の限界に打ちのめされ、絶望する。しかし、何とかそれを突破しようと努力する。それでもやっぱり駄目なこともある。人に助けられることもあるし、人に騙されて辛くなることもある。何かに夢中になったこともあるが、人生がだるくて惰性で生きていたこともある。こんなことを繰り返しながら、しかし自分なりに生きてきたことを見つめている。そして、 $\langle$ 私 $\rangle$ はこれからもこうやって生きていく。幸せの問いには、このような物語の自己了解がある。

もちろん、生まれてきたことを後悔している人はいるだろうし、生まれてこない方がよかったと考える人もいるにちがいない。私の人生は辛い、生まれてこない方がましだった——この深いリアリティに疑念を挟むことに意味はない。しかし、このリアリティを幸せになれない可能性と関連づけて一般化できるかどうかは、まったく別の話である。幸せの意味を問うことの方に、人間の本質的かつ普遍的な問題がある、と言えるのかもしれない。(中略)

今度は、(二)である。かりに生まれてきたら幸せになれない可能性が高いとしよう。しかし、だからといって、一般に生まれてこない方がいい、と言えるのだろうか。この世界に幸せを感じながら生きている人はたくさん存在する。自分は生まれてこない方がよかったと思っっている、という主張であれば、私はその考えを尊重する。しかし同時に、私は、その考えを共有できる人は限られている、とも言うだろう。生まれてきたら幸せになれないかもしれないから、生まれてこない方がよい、というのは、過度に一般化しすぎなのである。

生まれてこない方がよかったと思っっている人が、子どもをつくる行為について違和感を持つのは理解できる。たとえば、お前なんか産まなければよかった、というあまりにもひどい暴言を浴び続けて育った人の中には、子どもを持つことにエゴイズムを感じ、それを無責任に思う人もいるかもしれない。先の場合と同じように、この個人の考えを私は理解し尊重できる。

しかし、一般に、子どもを持つかどうかは、個人の選択の自由に任せるほかない問題であって、それ以上の原理はない。たしかに、子どもを持つことには大きな責任が伴うし、その責任を軽く考えてはいけない。実際、無責任な親も存在する。そうだとしても、選択の自由は保障されるべきであり、子どもを持つ自由も持たない自由も尊重される社会設計が普遍性を持つ、と私は考える。もちろん、自由の普遍性とは異なる社会原理に基づいて、考えを進めていくこともできるだろう。だが、その場合、どういう原理で社会を構想するのかについて十分に説明し、多くの人が納得しうるものにしていかなければならない。

こうして、<sup>E</sup>先の投稿には不明瞭な部分が多く、真偽を判定するための材料が十分に揃っていない、ということが分かる。一言でいえば、議論の前提が成立していないのだ。ところで、これはいかにもプロっぽい回答だろう。しかし、ここで重要なのは、もっともらしい私の「答え」を使って反撃することではなく、自分なりの言葉と論理を組み立ててみることである。先の投稿の代わりに私の主張を採用

してしまえば、考える「私」の存在が希薄である状況はさして変わらない。これでは善のパッケージに飛びつくのと同じである。

SNSで述べられていることを漠然と受け入れたり、逆にモウレツ<sup>⑤</sup>に批判したりするのはなく、まずは「私」にとって、その事象はどういう意味を持つのかを深く掘り下げてみるのだ。ちなみに、先の例は私が適当につくったものであり、現実の投稿ではない。だから、そこに批判すべき相手はいない。反射的な批判や論破からは距離を置いて、「私」の洞察と表現に軸足を移す。そうして、「私」を浮かび上がらせるのだ。

(岩内章太郎著『「私」を取り戻す哲学』〔講談社、二〇二三年〕による。出題にあたり一部を改めた。)

日本赤十字東北看護大学 一般入学選抜 出題の意図

科目名 国語

設問 1

本文中の抽象概念（「状態」「理念」としての幸せ）を理解し、両者の違いを本文の具体的記述に即して整理・説明する読解力と要約力を測る。

設問 2

空欄補充を通して、文章の文脈や論理的構造を正確に把握しているかを確認する。

設問 3

筆者の問題提起に対して、その背景となる論理や価値観を読み取り、根拠に基づいて説明する読解力と論理的思考力を測る。

設問 4

指示語の指す内容を適切に読み取る力（照応関係の把握）を測るとともに、文章内の具体的な記述から根拠を特定する能力を確認する。

設問 5

情報の信頼性の判断に関する意見を、筆者の思考過程に即して把握し、それを論理的に説明する力を測る。また情報の不備や推論の妥当性を自ら点検できる批判的読解力を評価する。

設問 6

筆者が示す「哲学的思考の方法」の特徴を、文章全体の文脈から総合的に把握・要約する力、および本文の論旨を踏まえ、自分自身の立場から考察を深める力を測る。

設問 7

文脈に即した語句を正しく漢字表記する力を問うことで、国語の基礎的な知識、特に語彙力と漢字の運用能力を確認する。

解答

問1 傍線部Aについて、①「状態」としての幸せと、②「理念」としての幸せは、それぞれどのようなものか。本文の内容に即して説明しなさい。(各10点、計20点)

①「状態」としての幸せは、例えば空腹が満たされた時の満足感のように、具体的な欲望が実際に充足されることによつて得られる心の状態のことである。

②「理念」としての幸せは、「いつか幸せになりたい」のように、理想的なあり方を想定するものであり、形を持たない抽象的な概念のことである。

問2 ( a ) ( d ) に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選び、記号で答えなさい。(5点)

4

問3 傍線部B・Dについて、私たちが幸せのことを考えたり、それが人間の根本問題となるのはどうしてか。本文の内容に即して説明しなさい。(14点)

私たちが幸せのことを考えるのは、私の生に対する納得や期待や幻滅があり、どのような欲望を大切にして生きるのかを見つめ直しているからである。またそれが人間の根本問題となるのは、生の選択や受容をめぐり、一回性を本質とする生の全体を納得したいという普遍的な欲望があるからである。

問4 傍線部Cについて、これに相当する語句を、傍線部以降の文章の中から十字以内で抜き出して答えなさい。(5点)

物語的自己了解

問5 傍線部Eについて、何故そのように考えることができるのか。本文の内容に即して説明しなさい。(14点)

先の投稿では幸せの定義が不明瞭であり、その内実も個人の資質や状況によって異なる。また「生まれてこない方がいい」という主張は過度に一般化されており、子どもを持つことの是非に関して考える材料も十分に示されていないため、議論の前提が

成立していないと考えられる。

問6・①二重傍線部Xについて、「哲学的な思考の方法」は総じてどのようなものだと筆者は述べているか。本文全体の内容を踏まえて説明しなさい。(14点)

反動的な批判や論破から距離を置き、〈私〉にとってそれがどういう意味を持つかを自身の生や欲望と関連づけながら深く掘り下げ、自分なりの言葉と論理を主体的に組み立てていくことだと述べている。

・②本文では、SNS上の意見をきっかけに哲学的な考察が展開されている。これらの議論を踏まえ、現代社会においてSNSとどのように向き合うべきか、具体例を挙げてあなたの考えを述べなさい。(18点)

〈採点基準〉

- ・本文での議論を踏まえ、自分自身の考えが明確に示されているか。
- ・自分がそう考える理由について、適切な具体例を用いて説明されているか。
- ・文章が筋道立てて構成され、論理的に述べられているか。

問7 傍線部①から⑤の傍線部のカタカナを漢字に直し、( )内に示しなさい。(各2点、計10点)

- ① 想起                      ② 便宜                      ③ 潜                      ④ 淘汰                      ⑤ 猛烈